

分担金・拠出金の名称	日カリコム友好協力拠出金	評価	B
拠出先の国際機関名	カリブ共同体(カリコム)		
国際機関の概要	カリブ共同体(カリコム)は、旧英領カリブを中心とした14か国が加盟する地域機構。 経済統合、外交政策の調整、保健医療・教育等に関する協力の促進を主な目的としている。 最高意志決定機関:カリブ共同体(カリコム)首脳会合 下部機関:カリコム外交・共同体関係理事会(カリコム外相会合)等 事務局設置場所:ジョージタウン(ガイアナ)		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況	
1. (1) 成果目標:我が国重要外交課題遂行におけるカリコム諸国とのパートナーシップの強化 活動指標:同じ海洋国家であり、国際場裡において共通の立場をとることが多いカリコム諸国に対し、我が国の方針に則った支援を行うことにより、国際場裡における我が国のプレゼンスに対する支持や主要課題に対する我が国の立場への理解・支持を促進する。		カリコム加盟14カ国は、首脳会合や外相会合等の閣僚級の会合を定期的に開催し、加盟国間の外交政策調整を行うなど国際場裡における重要課題において共通行動をとることが多い。また、各国の意見や対応の調整においてカリコム事務局が非常に重要な役割を果たしている。我が国としては、国際場裡における諸議題において、カリコム14カ国の我が国の考えに対する支持・理解を得ることは重要。 カリコムは、主に小島嶼の14の小国で構成されているが、上述の目的を達する上で、同機関の包括的な調整が期待される。具体例として、2014年11月の第4回日・カリコム外相会合においてとりまとめられた日・カリコム共同閣僚声明では、国連安保理改革に関し、国連創設70周年である2015年に具体的成果を得るため連携を強化することでの一致、また、日本からの世界の平和と安定に貢献するための取組の説明に対し、カリコム側の歓迎・支持が明記されるなどの成果が達成されている。 このように、カリコムへの支援により、全14カ国との信頼関係の構築が可能となっている。一方で、カリコムに支援することで、14カ国に裨益し、カリコム側からは謝意が示されている。その結果として、国際場裡における我が国の立場の強化につながる着実な効果を生み出している。	
(2) 成果目標:機関の対外政策における我が国のプレゼンスの強化 活動指標:カリコムと我が国のハイレベル協議における、カリコム側からの謝意及び協議を通じた我が国重要外交施策への理解の表明		我が国は、ほぼ毎年、日・カリコム事務レベル協議を行っているほか、閣僚レベルでは、2000年に第1回の日・カリコム外相会合を開催して以来、これまでに4回の外相会合を開催、2014年には初の日・カリコム首脳会合を開催するなど、日・カリコム間の協議を着実に実施している。協議の際は、日・カリコム関係のほか、国際場裡における主要課題について個別に議論し、我が国からは日本の立場について説明するとともに理解・支持を要請する機会となっている。 上記のようなカリコムとの協力関係は、我が国による同機関に対する資金協力等を通じた貢献の積み重ねによる信頼関係が基盤となっている。この結果として、例えば、2014年11月に採択した共同閣僚声明においては、科学的根拠及び適切な管理に基づく海洋生物資源の持続可能な利用が重要であるとの認識の一致を得るなど、我が国の国際場裡における立場への支持表明が行われている。	
(3) 成果目標:効率的な組織・財政マネジメントの実現 活動指標:具体的な組織運営改善措置の導入		日カリコム友好協力基金によるプロジェクト実施や日・カリコム間の協議実施に向けた準備段階において、カリコム事務局と緊密に連携することを通じて、カリコム事務局のマネジメント強化、財政マネジメントの効率化に努めている。 我が国としても、拠出金の使途や関連事業等のフォローアップを通じて、その公正な運用を随時確認している。	
(4) 成果目標:我が国人材の知見、専門性を活かした貢献 活動指標:職員数、邦人増強に向けた取り組み		カリコム事務局に地域開発計画のJICA専門家を1名派遣中(同事務局には333名の職員が在籍)。 このように、我が国は、カリコム域外国であるにも拘わらず職員一名の派遣を実現している。更に、カリコム側は、同加盟国と同様の島国(カリコムの一部は沿岸低地国)である我が国に対し、ハリケーンや地震等の自然災害を受けやすいこともあり、防災及び再生エネルギーなどを含む環境分野での協力、またカリコムには観光立国も多いことから、我が国の観光分野における知見の共有が期待されている。このような期待もあり、今後も必要な人材を派遣する可能性を検討していく必要がある。	
2. PDCAサイクルの確保		カリコムにおいては、以下の通りPDCAを確保。 ①計画段階(Plan):カリコム事務局が加盟国からの要請をとりまとめ提出した提案書を精査し、必要に応じ修正協議を行った上で承認、②実施段階(Do):カリコム事務局に対し中間報告の提出を求めたり、事業のモニタリングを行っている、③評価段階(Check):事後、報告書を確認し、計画に基づく実施及び成果につき評価、④フォローアップ段階(Act):毎年行っている日・カリコム事務レベル協議をはじめ、政務レベルを含む不定期の協議において、事業及び基金運営の改善について指摘や意見交換を行っている。	
担当課・室名	カリブ室		